

磯江毅展

GUSTAVO ISOE

スペイン・リアリズムの密度



《サンчес・コタンの静物(盆の上のあざみとラディッシュ)》 2000-01年 油彩・キャンパス

2010年9月18日(土) — 11月7日(日)

休館日=毎週月曜日(9月20日と10月11日は開館、翌日休館) 開館時間=9:30-17:00(入場は16:30まで)

平塚市美術館

SHONAN

THE HIRATSUKA MUSEUM OF ART

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡1-3-3 tel. 0463-35-2111 fax. 0463-35-2741 <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/>

観覧料=一般200(140)円/高大生100(70)円 ※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下及び毎週土曜日の高校生は無料 ※各種障がい者手帳の交付を受けた方及び付添1名は無料 ※65歳以上で平塚市民の方は無料、市外在住の方は団体割引を適用
主催=平塚市美術館 協力=彩鳳堂画廊

磯江毅展

GUSTAVO ISOE

スペイン・リアリズムの密度

関連事業

担当学芸員によるギャラリートーク
 開催日時: 10月10日①、10月24日②
 各回14:00-14:30
 場所: 展示室 (申し込み不要、観覧券が必要です)

同時開催

「堀文子展」 10月9日③-11月23日④⑤

透徹した描写力を持ち、現代リアリズム表現を追究した画家・磯江毅(いそえつよし1954-2007)の作品を、初めて公立美術館にてご紹介します。

磯江は大阪に生まれ、1974年、西洋美術を本格的に学ぼうと18歳でスペインに渡ります。王立美術学校でデッサンの基礎を学び、プラド美術館に通って、デューラーやフランドル派の画家たちの名画の模写に没頭しました。マドリッドは、1970年頃から新たなリアリズム表現を求める画家の活動の中心地となっており、磯江は自らを「GUSTAVO ISOE」(グスタボ・イソエ)と名乗って、アントニオ・ロペス・ガルシアといった画家たちと交流し、80年代にはその運動を担う一人として活躍していきます。

存在の実感—リアリティーをつかんで平面上に写し取るリアリズム表現は、伝統的な西洋美術の根幹をなすものであり、20年以上をスペインに暮らして、それを体得した磯江の作品からは、事物の発するエネルギーやそれを取り巻く空間そのものさえ確固として感じることができます。「リアリズム絵画とは、実体とはフィジカルなものだけど、徹底した描写によってメタフィジカルな世界が見えてくるのを待つ哲学です」という磯江の言葉どおり、個人の情感や主観を排して描写に徹した画面からは、静謐で孤高な精神世界が現出しています。

1996年からは日本にもアトリエを構えて、日本にリアリズム絵画を根付かせたいとしていた磯江ですが、2007年に53歳の若さで急逝しました。作品の完成に長い時間がかかることもあり、寡作な作家の活動の成果を目にする機会は、これまであまりありませんでした。この展覧会では作品約60点により、磯江が極めたその表現世界を展覧します。



《マルメロ》 2004-05年



《窓辺の出来事》 1987年



《静物(棚の上のパンと瓶のある静物)》 1991年



《パニータスII(闘病)》 2006-07年



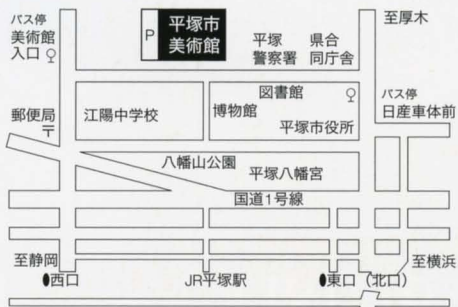
《深い眠り》 1994-95年



《静物(盆の上の鶺鴒)》 1995年



《鯛》 2007年



【交通案内】

JR東京駅から東海道線で約1時間、JR平塚駅から徒歩20分。
 または平塚駅東改札口(北口)よりバス4番乗り場乗車「美術館入口」
 または「日産車体前」下車。無料駐車場70台。

平塚市美術館

SHONAN
 THE HIRATSUKA MUSEUM OF ART

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡1-3-3 tel. 0463-35-2111 fax. 0463-35-2741
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/>



《薔薇と緑青I》 2002年